

# 長畝ふるさと通信



【2022年10月号】

## ■ 稲刈り終了、新之助奪還

刈り遅れが心配された稲刈りは、例年より4～5日遅れて16日で終了しました。不作だった前年に比べれば粒張りも良く、平均反収も計画の8俵には届かなかったものの、まずまずの出来栄でした。食味計で測定した食味値は80点を下回っていますが(たんぱく値が少し高かったようで・・・)、試食してみたところ、普段通りに美味しかったので安心したところです(皆さんはどう感じたでしょうか?)。

昨年、高温障害による「胴割れ」で2等格落ちとなり「新之助」を名乗ることができなかった新之助は特裁(化学肥料や農薬を5割以上減らした栽培方法)をあきらめ、慣行栽培(できるだけ減らしましたよ)に切り替えてみました。適期に穂肥を効果的に施肥することができ、水管理もできるだけ遅くまで水を張っていたことで1等米となり、おかげさまで「新之助」を奪還することができました。食味値もコシヒカリより2ポイント高い80点、来年以降どうしたものか・・・



## ■ おけさ柿も復活

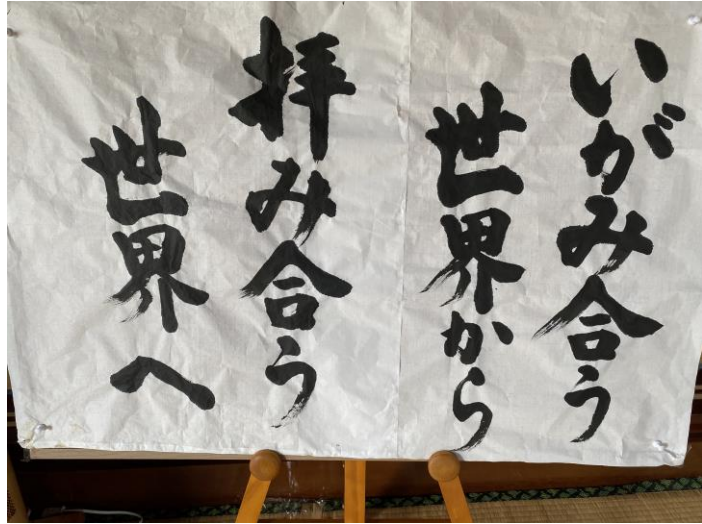
昨年春、たった一瞬の霜で1割作となったおけさ柿の長畝団地ですが、今年は霜害もほとんどなく平年並みの収量を取り戻したようです。来春には約16haの団地に200基もの防霜ファンが設置されます。これで霜害から解放されれば生産者としては有難いのですが、問題は1億円あまりの設置費用です。後継者もままならない状況下でしっかりと返済していくことができるのか・・・柿団地の苦悩はまだまだ続きそうです。

## ■ 諸悪の根源は…

総務省が公表する小売物価統計によると、2021年2月時点ではコメはキロ当たり436円、食パンが435円とほぼ同額でしたが、今年の4月時点ではパンが472円と37円高くなったのに対し、コメは413円と23円安くなっています。先月号で心配していたことが現実となってしまいました。多くの国民はパンの値上がりには理解を示すのに、コメの値上げには厳しいのです。小麦粉は今後も更に値上げすると思いますが、それでもパンの値上げには寛容なのでしょうね…。

そもそもこんなに世の中に値上げブームが来た諸悪の根源は何なのか、コロナや円安の影響も大きいでしょうが、やはりウクライナ情勢が一番だと思います。平和だと思っていた世の中に突如、侵略戦争が勃発しもうすぐ1年が経とうとしています、解決の糸口さえ見えていません。「国際法違反であり誠に遺憾であります」「断固として非難いたします」「断じて許すことはできません」などと言葉では勇ましく表明するものの、具体的にウクライナの人々を助ける策は見えてきません。武器だけを提供してウクライナ兵士にだけ戦わせていることに心が痛みます。何とかならんのか！世界中の偉い人たちは何してる？

家のお寺さんに掲示してあった有難いお言葉が気に入りました。



## ■ 短い秋が過ぎ、もうすぐ冬です

9月後半は真夏のように暑く、収穫の秋はあっという間に過ぎていきました。ゆっくりと秋を楽しむ余裕もなく、山のもみじが燃えるような紅葉を迎え晩秋を感じます。せめて秋の夜長にゆっくりと晩酌を楽しみたいものですが、ビール愛飲家にとっても残酷な値上げです。



農道には黄金色に輝くセイタカアワダチソウが群生し、抜けるような青空にたくさんのトンボの新婚夫婦がランデブーしています。

佐渡は至って平和です。

新米のおかわりは自由です。